



報道関係者各位

2023年3月8日

食生活ジャーナリストの会

第7回「食生活ジャーナリスト大賞」受賞者決定 生活史研究の阿古真理氏と「週刊朝日」長期連載の東海林さだお氏

食生活ジャーナリストの会(JFJ、代表幹事 畑中三応子、会員数135人)は、第7回「食生活ジャーナリスト大賞」(2022年度)の受賞者を厳正なる審査により、ジャーナリズム部門に作家・生活史研究家の阿古真理氏、食文化部門に漫画家の東海林さだお氏を選出しました。

「食生活ジャーナリスト大賞」は食に関する情報発信や食文化(食育、料理、調理、地場産業の振興、食文化の継承など)の分野において、すぐれた活動や業績を残している個人または団体を顕彰するもので、2016年に創設されました。ジャーナリズム部門と食文化部門の2部門からなります。各受賞者の詳細については別紙をご参照ください。

なお、3月23日(木)19時より、日比谷図書文化館4Fスタジオプラス小ホールにて、授賞式(ハイブリッド形式、Zoom)を開催いたしますので、取材を希望される方は以下の授賞式参加申込フォームよりWEB登録をお願いいたします:

◎第7回「食生活ジャーナリスト大賞」授賞式 参加申込フォーム
<https://forms.gle/Xd2GBAHbQ3879qkZA>



詳細はJFJホームページをご参照ください → <https://www.jfj-net.com/>



<本リリースに関する問い合わせ先>

食生活ジャーナリストの会(JFJ)事務局:info@jfj-net.com

担当:山崎 毅(090-3527-0273)

◆第7回食生活ジャーナリスト大賞受賞者◆

ジャーナリズム部門

受賞者： 作家・生活史研究家 阿古真理氏

授賞理由： 「家事は大変って気づきましたか？」(2022年刊)をはじめとする、近年の食や暮らしに関する積極的な執筆活動

講評： 「家事は大変って気づきましたか？」では、食事づくりを中心とした家事について、明治から令和までの変遷を分析した。家事をめぐる意識を解き明かしたこの一冊は、家事分担が女性に偏り、負担に感じる声があがる中、時期を得た内容で話題となった。また2021年に刊行した「日本外食全史」では、豊富な資料を用いて江戸時代以降の外食の変遷を丹念にたどった。食をめぐる現代社会の課題を掘り起こす視点と優れた調査分析力で、食生活ジャーナリズムの発展に寄与した。

<阿古真理氏プロフィール>

1968年生まれ、作家・生活史研究家。食を中心にした生活史とジェンダー問題を専門に、書籍やWEBメディアなどで執筆。著書に「料理は女の義務ですか」「小林カツ代と栗原はるみ 料理研究家とその時代」「『和食』って何？」など。

食文化部門

受賞者： 漫画家 東海林さだお氏

授賞理由： 「週刊朝日」誌上で36年にわたる連載エッセー「あれも食いたい これも食いたい」の執筆

講評： 食をテーマとするイラスト付きのエッセー「あれも食いたい これも食いたい」は今年5月、101年の歴史に区切りをつけて休刊する「週刊朝日」の看板コラムの一つで、日本の食べ物を軽妙な筆致で切り取ってきた。そこで取りあげられる食のあれこれは、あまりにも普通で身近だけに忘れられてしまいやすい事柄であり、作品は鋭い感覚と観察眼で日本人の食を文章にとどめた貴重な記録となっている。

<東海林さだお氏プロフィール>

1937年生まれ。漫画家。新聞、週刊誌で活躍、ユーモアあふれるタッチでサラリーマンの生活を描いた漫画で、多くの読者を得る。エッセイストとしても知られ、「あれも食いたい これも食いたい」を単行本化した「丸かじりシリーズ」は45タイトルを数える。2000年、紫綬褒章受章。

以上